

キャンパス 進化論

通いたくなる大学の新たな条件

少子化、地域コミュニティの衰退、急速なグローバル化、アジア諸国の台頭、世界的な競争力の停滞——日本の教育界を取り巻く環境は厳しさを増しています。

1992年に205万人を記録した18歳人口は、2013年には120万人を割り込んでいます。その一方で進学率は約80%にまで達しました。このような環境下において、各大学が改革の

柱の一つとして取り組んでいるのがキャンパス整備です。

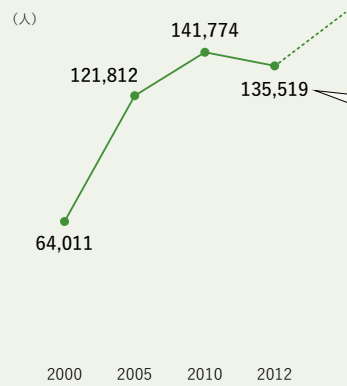
工場等制限法の廃止により用地取得や高層校舎の建設が比較的容易になったことから、都市部の大学は都心と郊外に分断していたキャンパスを再編、都心回帰を図っています。同時に、学部の新設や再編にも着手し、同一キャンパスでの4年間一貫教育の導入、新しい学問領域の開拓、PBL(課題解決型学習)や語学教育の拡充、キャリア教育の早期スタートなどの教学改革を推進しています。

また、留学生用宿舍の整備をはじめとするグローバル化対応、地域コミュニティにおける知の拠点整備事業など、日本全国で様々なキャンパス整備事業が進められています。

いかにして魅力あるキャンパスを作り上げて、大学の個性を輝かせ、未来を担う人材を育成していくのか——今号では、キャンパス整備を通して、教育・研究・社会貢献のさらなる強化に挑む5つの大学を紹介します。

留学生数の推移

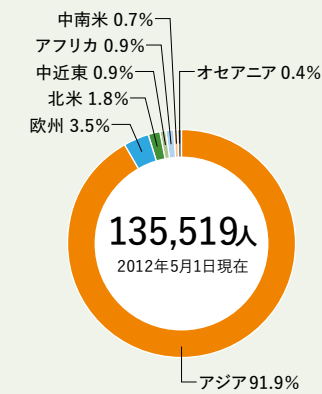
2000年当時、6万4,000人あまりだった外国人留学生(高等教育機関在籍数)は2010年には約14万1,700人に急上昇。今後はさらに留学生の受け入れを増やし国際化を図ることもミッションの一つです。



出典:独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」より

出身地域別留学生数

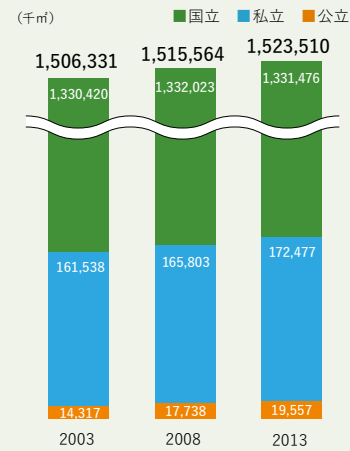
外国人留学生の9割はアジア出身で、現在は中国からの留学生が約6割と圧倒的に多数。今後は宗教面や国際寮などの環境整備で、中東、アフリカなど広範な留学生の受け入れを目指す大学が増えています。



出典:独立行政法人日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」より

大学の土地面積年次推移

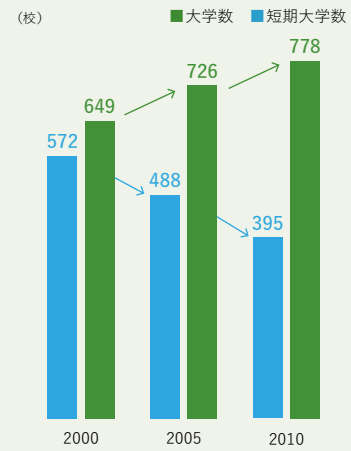
国立・公立・私立を合わせた大学の土地面積は全体的に増加傾向で、とくに私立大学の増加が顕著。キャンパス整備による統合、移転の影響がうかがえます。



出典:文部科学省「学校施設調査」より

年次別大学・短期大学数

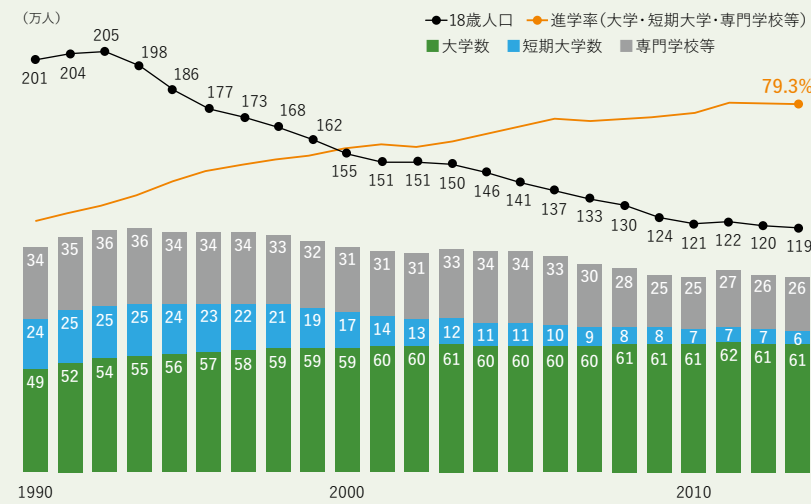
短大数は減少する一方、大学数は右肩上がりです。18歳人口が減少する2021年に向けて、志望者をいかに確保していくか対策が急務に。



出典:文部科学省「学校基本調査」より

18歳人口と進学率の推移

18歳人口は1992年の205万人をピークに、2013年の119万人まで減少。その一方で、進学率は約80%まで上昇しています。



出典:文部科学省「学校基本調査」より